

## 推薦する取り組み

## 園館名

生息環境展示を惹き立てる自然素材活用のエンリッチメント

宇部市ときわ動物園

## 推薦理由

ときわ動物園は、施設の老朽化などから全面リニューアル整備を2012年から開始し、2016年3月にグランドオープンしました。アジア・アフリカ・中南米に生息する霊長類を主とした26種類の動物を展示しています。現地調査を行った上で生息地に近い環境を再現し、自然の中で生活する動物の姿と動きを観察できる展示を目指しています。

アジアの森林ゾーンでは、アジアの霊長類5種類とコツメカワウソを含めた計6種類の動物を展示しています。シロテナガザルの放飼場には、樹高2~10mの様々な樹木を配置しています。人工的な作られた構造物とは異なり、横枝の伸びた生きた樹木は枝先がしなるため、シロテナガザルは高さや幅の違う複雑な樹間を生息地さながらにブラキエーション(腕渡り)で俊敏に移動しています。樹林、岩場、水辺等、南インドの生息環境を再現したボンネットモンキーの放飼場では、これまでのサル山にみられなかった高木による緑陰を作るとともに、移動、休息に利用される多くの倒木を配しています。同じ地域に生息するコツメカワウソをこの施設内で同居展示を行い、水辺を含め400mを超える放飼場で2種の動物がそれぞれ自由に行動しています。好奇心旺盛なボンネットモンキーの子どもがコツメカワウソに触れる等、両種が接近、接触する姿が随所で見られ、適度な緊張感や距離感で生活する2種の動物の姿を観察することができます。

中南米の動物を展示するゾーンでは、生息地のアマゾン再現した樹林と水辺がつくられ、クモザルとカピバラの展示では、樹林の高所に配された蔭と枝の間をクモザルが四肢と尾を使って移動し、樹林の下の水辺でカピバラが遊泳する姿を見ることができます。カピバラがクモザルの島に上陸すると、クモザルが樹上からカピバラを観察しながら接近し、時には接触を試みる等、異種が同じ空間を共にする光景を観察できます。山口宇部のニホンザルの展示では、旧来のサル山を一新し、自然石と巨木の倒木、緑陰と多くの植物を配して、樹上性の行動を誘発しています。

当園の放飼場は生息地に近い環境を再現するため、多くの木々や草本が配置されています。動物たちは自由に放飼場に生育する草葉を食べることができますが、ときわ動物園では以前から枝葉に加え、「緑餌(りょくじ)」と呼ばれる様々な野草を動物たちに給与しています。この枝葉や「緑餌」は、ときわ公園内に自生する樹木や野草を採取するとともに、牧草の類も栽培し使用しています。「緑餌」は、クローバーやタンポポ、ドクダミ、ハコベ、ウマゴヤシ、ヨモギ等、季節ごとにとれる十数種類の野草と牧草を混ぜ合わせたもので、霊長類とカピバラに日量10~15kg与えています。野生動物は生息地において様々な植物を採食していることから、通常の給餌メニューに加え、枝葉や「緑餌」を給与することが、栄養素の補給に役立っていることはもちろんのこと、それ以外にも多くの効果をもたらしています。1点目は、ときわ動物園の取り入れた生息環境展示ならばこそその効果で、この自然素材の給餌が展示景観とうまく調和しています。2点目は、これらの餌の採食に時間を費やすことから、エンリッチメント効果も期待できます。3点目は、食べ終わった枝葉がサル類のコドモ達の格好の遊び道具にもなり、子ども達が枝を奪い合いながら放飼場内を駆け回る姿も見られます。

また、動物達が放飼場で快適に過ごすことを目的に飼育員が作成した道具や設備は、自然の景観を損なわないような工夫が施されています。トクモンキーやボンネットモンキーの放飼場には、目立たないようにコーヒーで染色した消防ホースをツタのように枝から枝に渡しています。ボンネットモンキーのコドモ達はこの擬ツタに器用にぶら下がり遊ぶ姿が見られます。また、ヤシの葉や枝葉でカモフラージュした屋根は、日中屋外で生活する動物達の日除け、雨除けとして機能しています。さらにブラッザグエノンの放飼場では自然素材の日除け雨除け屋根のほか、熱中症防止のために樹木の枝を模したミスト装置が設置されています。

放飼場で行う給餌についても自然物を利用し景観に溶け込む配慮をしたうえで、動物の採食を手間取らせる工夫や、野生での行動を少しでも発現できるような試みを行っています。トクモンキーの放飼場では落ち葉を集めたエリアに大豆を撒くことで、探索行動を誘発させ採食時間を増加させています。リスザルやフサオマキザルの放飼場には木や竹を加工したフィーダーを設置し、樹上での採食を誘発しています。

動物園が目指す環境エンリッチメントを一般の方々にも広く知っていただくために、2017年5月20日から45日間にわたって「しあわせ動物園計画」と銘打った企画展を開催しました。期間中、ときわ動物園や他の動物園でのエンリッチメントを写真パネル、模型、実物フィーダーなどで紹介する展示「環境エンリッチメントって何？」を行うとともに、講師をお招きしての講演会、そしてワークショップ「ウサギとモルモットの環境エンリッチメントを考えよう」の3つを行い、動物園の取り組みについて、理解が深まったのではないかと考えています。



様々な樹林で三次元空間が形づくられ、高所を俊敏に腕渡りするシロテテナガザル



水辺はボンネットモンキーとコツメカワウソが集う場所。適度な距離感で2種が生活している。



高所の樹林に生息するクモザルのための高木の樹林とカピバラの水辺。



「緑餌」を食べるカピバラ。採食時間が多くなるほか、観覧場所近くで給餌するため、観覧者がカピバラの採食風景をゆっくり観察することができる。



フサオマキザルの放飼場にあるフィーダー。効果的に利用させるため、試行錯誤を繰り返している。



トクモンキーの放飼場での給餌風景。落ち葉を集めたエリア(写真左下)に大豆を撒き、探索行動を誘発させ採食時間を増加させている。



講師を招いてのエンリッチメント講演会



動物園内ふれあいコーナーでのエンリッチメントワークショップ

しあわせ動物園計画

～環境エンリッチメントってなに？～

期 間：5月20日(土)～7月3日(月) 時 間：9:30～17:00  
 場 所：体験学習館モンスター ※毎週火曜日休館  
 講演会：6月11日(日) 14:00～15:00 SHAPE-Japan 萩原慎太郎氏  
 ワークショップ：～ウサギとモルモットの環境エンリッチメントを考えよう～  
 6月18日(日) 14:00～15:00 小学生以上対象(事前申し込み、定員20名)

主催：宇部市ときわ動物園 共催：SHAPE-Japan

「しあわせ動物園計画」ポスター

## 推薦する取り組み

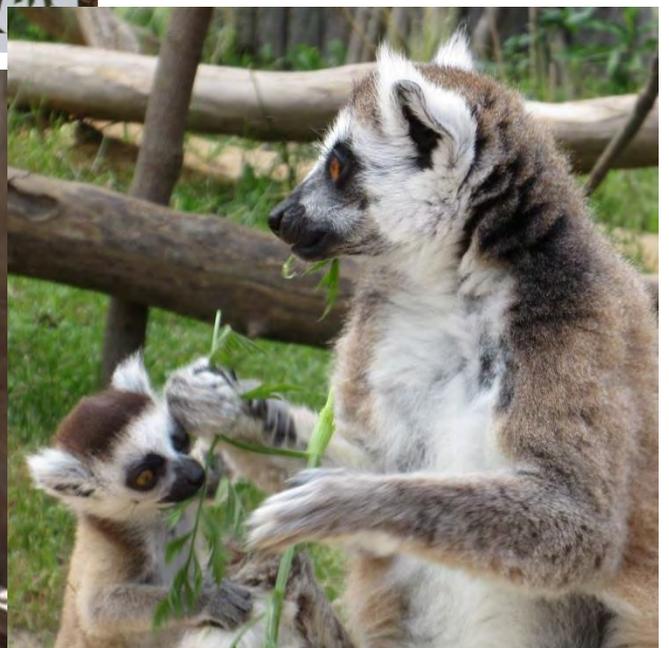
## 園館名

サルたちを健康にした食物選択と  
自然な動きを実現した施設の新設

宇部市ときわ動物園

## 推薦理由

ときわ動物園でもっとも注目されるのは、動物園に入る前から自然の中にいるような木々の配置と木の柵ごしにサルたちが見られる展示です。中に入ると林の中を歩いている感じになり、その曲がり角ごとに新しい風景と新しいサルたちに出会える展示は実にユニークで美しいものです。また、それぞれのサルたちの生息環境を最大限に尊重した木々の配置と擬岩、擬木、擬果実にも美的なセンスを感じることができます。さらに、そのサルたちが青々とした草を食べているのですが、すべて特別に栽培した牧草、雑草、林からとってきた葉などだそうで、季節の恵みをサルたちが満喫している感じに好感をもちました。この新設された施設の配慮とサルたちの食物へのこだわりがあるので、サルたちの毛並みのよさがことさら目につきました。輝く毛並みは健康の証であり、この施設でサルたちが生き生きとしている理由だと思います。オマキザルが人に対して好奇心をもって接近できる展示やカピバラとクモザルの同所展示もお互いの関係と、見物する側にも実に巧妙な視覚効果を与えていることに感心しました。テナガザルの島の展示は一昨年完成したのですが、生き生きとしたテナガザルの家族の動きは、いつ見ても見飽きることはありませんでした。ときわ動物園のどの施設でも、サルたちが生き生きと動いていて、うずくまって動きの少ないサルがほとんどいないことが印象的でした。その感動が、この動物園施設と飼育のための食物選択をエンリッチメント大賞に推薦する理由です。



推薦する取り組み

園館名

動物たちにとって「良い」食べものって、何でしょう？

ときわ動物園

推薦理由

ときわ動物園では以前より、与えるエサも果物などを減らし、野生で食べているものにより近い野菜中心のエサに変更をすすめています。一般的なサル類の給餌メニューに加え、枝葉や「緑餌」(十数種類の野草と牧草)を給与しており、栄養素の補給に役立っていると考えられています。

リニューアル当初から園内の緑を維持するため、隣接する植物園と連携しているが、今年に入ってから動物に与える食べ物に関しても共に取り組んでいる。以前あたえていた黄色く熟したバナナなどの果物はサルにとっては糖分が高すぎることがわかり、与えることをやめていました。しかし野生のサルは熟す前の青いバナナを食べていることが確認されているため、植物園で育てていたバナナが熟す前に収穫してもらい、サルに与えてみたところ喜んで食べるということがわかりました。植物園と連携することで野生のサルが食べている状態に近い状態のフルーツを与えることができています。定期的に野生化で実際サルたちが食べているフルーツを与えてみたり、動物園、植物園両方で掲示をするなどの取り組みの結果、サルの食べ物に興味を持っている来園者も多くなっています。

URL→<https://www.tokiwapark.jp/zoo/staffblog/diary/post-359.html>

ときわ動物園では園内にある「体験館 モンスタ」にて定期的に講演会やワークショップを開催しています。

- ・講演会「動物園のための応用行動分析学」
- ・講演会「どうぶつの幸せを考えたことありますか？～動物福祉と環境エンリッチメント～」
- ・ワークショップ「ウサギとモルモットの環境エンリッチメントを考えよう」!

ほかにもいろいろなイベントを開催しておりエンリッチメントの重要性を広めています。

写真はときわ動物園 Blog からお借りしています。

